

1 再び歩み始める「教育協働への道」！緩やかに、それ故に、確かな足取りで?!

堂本 彰夫

(1) やはり、歩みを終わらせるわけにはいかない?!そして、実は、それしかないのでもある?!

ついに、「その時」が来てしまった!過ぎてしまえば、何ということはないのであろうが、あと数日で「古希」を迎える私は、ここで、改めて、これからの人生(余生?)を、どのようにするかを決めなければならない!そして、それを決定づけるのが、ここでの論稿作成である?!ただし、他に何の取柄もない私であるので(謙遜ではなく、事実である!)、こう思うしかないのであるが、やはり、これまでの歩みを終わらせるわけにはいかない?!そして、実は、それしかないのでもある?!ただ漫然と日々を送るだけ、そんなのは嫌だということでもある!相変わらず、大仰なことを言うなと思われる向きもあるかもしれないが、本当に、そう思っているのである(それが、自らの自己確認?!格好良く言えば「存在証明」でもある?!)!

ということで、まさに今、「古希」という「その時」を迎えるに当たって、新たな「教育協働への道」を歩み始めようとしている私であるが、しかしながら、不安も、当然ある!その一番は、そこで見出すテーマの意義、そのテーマへの接近努力(考察や情報収集)に、これからの自分が、どれほどの意欲(パッション?)を注ぎ込めるのかということであるが、他方で、目や足腰の劣化は、さらに進んでいる(長期に亘るコロナ禍が、それに拍車をかけている!)!これが、この「古希」の頃の老いというものでもあろうが(ある種の自業自得でもあるが?)、端的に、パソコンづけの毎日は、本当に辛くなるばかりなのである!したがって、多少?弱気となるが、歩は緩やかとしたい!否、そうせざるを得ない?!だが、そうであればこそ、せめて確かな足取りで歩みたい!そんな思いなのでもある?!いずれにしても、果たして、どうなるのかではある?!

さて、そんな中、今、改めて思うことは、これまで「教育協働への道」と名付けて、その時々思いの丈を心ある人達に投げかけ、一方でまた、それを論稿として書き綴ってきたわけであるが、冷静に捉えると、それは、あくまでも、その時々に出くわした人との出会い・再会、そして出来事にかこつけた、私の想いの吐露、ある意味では「回顧」、そしてまた、その「備忘」のようなものがほとんどであった?!言い換えれば、そこに、新たな情報や展開の肉付けによる、より有用な状況受け止め、論理展開があったわけではないということである?!さらに言えば、私の方からの、一方的な喋りに終始していたのではないということである?!つまり、私のための論考(郷愁?)であったということである(それが、「現役を退く」ということでもあろう?)?!

とは言え、今更、教科書みたいなものは書きたくないし(書けもしないが!)、そもそも、そうしたものは、今の私の眼中には、まったくくない(誤解されては困るが、教科書が不要だということでは決してない!)!要は、この「新・教育協働への道」では(も?)、新たな情報提供あるいは理論構築というよりは、語ってきた「教育協働」の意味や大切さに共鳴/共感し、その下で、自らの実践を行おうとしている人達への、細やかではあるが、さらなるエールを送りたいということである!ただし、そのエールが、それぞれみなさん達の望ましい現実に、いかほどの貢献が出来るかは??である!今までもそうであったが、これからも、聞いてくれる人、見てくれる人がいる限り、続けていく!それしかない!そういうことでもあるわけである!

(2) 驚異的な動き?!国立大学に、こんな「附属小学校」が出てくるとは?!

そこで、早速であるが、今、私の頭の中にあるのは、先月のセミナー(第34回教育協働セミナー)で知った、国立大学の附属学校(H教育大学附属小学校)のCS化のことである!まさに、こんな時代だからなのではあろうが(全国的なCS化の進行!),少なくともこれまでは、あの、地域とは最も疎遠であった?国立大学の附属学校が、他ならぬ、その地域との連携・協働による学校のあり方を追求し始めているとは!とにかく、そんなことは、これまでは想像も出来なかったことであるので、全くもっての驚きであり、まさか、こんな時代が来ようとはという感慨と、是非成功して欲しいという思いが、半ば渾然一体としながらの情報入手であったということである(なお、私立のそれは、ここでは論外である!)?!

ちなみに、同大学自体も、とてもユニークな教育組織・授業運営を展開しており(先程、同大学のHPを見たが、ただただ圧倒されるのみである!)、とりわけ、そこの「教職大学院(専門職学位課程:教育実践高度化専攻)では、他の大学(院)の追随を、まったく許さないようなしくみやカリキュラムが準備されている(オンライン使用はもちろんであるが、担当教員の現地出張授業も、個別に、しかも正規に行われている!)?!どうして、このような大学(院)があるのか?誰が、このような大学(院)を実現させたのか?今更ながら、驚嘆と羨ましさが増すばかりである!繰り返しの愚痴?となるが、某国立大学の元教育学部長としては、これほどの衝撃はない!

とは言え、その中で、改めて私が特筆したいのは、これまで何度か紹介してきた「教育政策リーダーコース」のことであることは言うまでもない!つまり、そのコース目的には、「将来の『教育長』や現在の教育政策リーダー、教育行政をマネジメントされる方に必要な変革型の実践的応用力を育成する」とあるが、実は、件の附属学校長には、そのコースの1期生が登用されているのである!何という成果?であろうか!まさに、

こうした教育政策／教育行政の専門家養成が必要であり、それがなければ、各地の教育界（もちろん、社会教育も含めて！）の混迷は防げないし、ましてや、明るい未来は描けない?! そのように思ってきた私ではあるが、この、大学（院）と附属学校のタッグが秘めている意義や可能性を、改めて知らされているのでもある！

ただし、余計なことであるが、ただそれだけであつたら、そうした動きを、私は、そんなに評価はしなかつた？あるいは、好感をもたなかつたかもしれない（ある意味、悔しくもあるから？）?! すなわち、現実には、そうした目的に呼応している人々が、全国に多数いるということ（沖縄も多い!）、そして、その顔ぶれもさることながら、その人達の思いや行動力（ネットワーク力、団結力も含めて!）が、とても凄いということである！実際に面識がある人は、その内の一部ではあるが（しかも、多くはネット上での!）、そういう人達を、肌で感じられる！目の前で見ることが出来ている！そういうことである！これは、まったくの理屈抜きである！

だが、改めて、もし、国立大学の附属学校のCS化が必要だということになれば、そうした大学（院）の状況とは別に、その附属学校（幼稚園／高等学校等を含む）の設置目的・役割に、そのことが明確に示されなければいけない！つまり、「大学の学部・大学院や地域と連携し、教員の養成と研修、学校教育の実践研究による指導法の開発など、日本の公教育の根幹を支え、教育水準の向上を図ることを目的として設置されている、教育実習等を行う教員養成の場として、また先進的な教育の在り方を模索する実験校としての使命を持つ附属学校」の位置づけや研究テーマのあり方が、改めて問われてくるということである！

(3) 目指せ！学校からの「教育協働プロモーター」の養成、そして、効果的配置！

翻って、そのH教育大学附属小学校のCS化の取り組みは、これまでの教員養成や教員の現職研修（教員の派遣）の中に、「学校と地域の協働による学校／学級経営、そして授業実践」というテーマ（課題）を、大きく、そして、正式に採り入れようとしていることは間違いない?! 私自身としては、そのチャレンジの意義と可能性を大いに吹聴したいのであるが、まずは、こうした取り組みを必要だとする学校教育関係者が、他ならぬ「教員養成系大学（院）」及び、その「附属学校」から現れ出していることに（社会教育側からではないということ!）、驚きと称賛の声を挙げたい！

具体的には、当該圏域の「公立学校（直接的には義務教育諸学校）」のモデルとしての新しい形を提示するということであろうが（働き方改革も、同時に提唱されているようである!）、それは、「附属学校改革」ではあるが、その究極にあるのは、まさに一般の「(公立) 学校改革」でもあるわけである?! つまり、「学校とは何か?」、そして、それは、「地域の中に、どのようにあればよいのか?」という、本源的な問いに関わるものなのでもある! だから、それはまた、「学社融合」→「教育協働」への視座となり（「地域教育経営」→「ひとづくりとまちづくりの循環づくり」）、私に言わせれば、それはまた、かつて唱導した「教育協働プロモーター」の養成、そして、その効果的配置にもつながっていく動きと捉えることが出来るのである?!

これまでは、公立学校では出来ないこと、そして、それが、公立学校のため（その役に立つ）、あるいは、そのモデル?としての役割として、各種の取り組み（教育課程／授業研究等）を実験的・先駆的に行う、それが使命であるということであつたが、それが、実態としては出来ない?! 否、それよりは、むしろ、それを逆手に取って（公立学校には、所詮期待できないから?）、それとは違った目的（進学実績づくりも含めて?ただし、それは、それぞれの大学の設置状況によって異なってくるが?）を追求していた感もある附属学校であるが、今回のそれを、単なるブーム?の延長というように受け止めている向きもあるかもしれないが、取りようによっては、やっと、本来の姿が求められてきたということでもある?!

進学や就職、その先にある有利な人生を求めての「学歴社会」の出現は、ある意味必然ではあつたが、もうそろそろ、その負の遺産の相続は放棄して、新たな財産の蓄積にシフトしていくべきなのである! そこでは、まさに、何を学んだのか、何をしたいと思うようになったのか、その「学習歴」が問われるべきなのであり、しかもそれは、何も学校だけのものではなく（時間的にも、場所的にも!）、生涯に亘って続けられるものなのである! 問題は、その基礎となる学校での学び（人間関係も含めて!）を、よりよいものにしていくためには、それを促進させる「教育協働プロモーション」が重要なのであり、それを実現、遂行していく人々「促進者／プロモーター」が必要なのである!

そこに期待されるのが、今回のH教育大学の附属学校の動きなのであるが、彼らは（教員だけでなく、学生達も!）、各地の教員としては当然であるが、そのうちの一部（実数としては多い!）は、教育政策／教育行政の専門家として、将来大いに羽ばたいていく存在なのである?! 肝心なのは、一人前の人間として、子ども達がどのように育つのかであり、彼らが、地域や国をどのように受け止め（愛し?）、その一員として、どのように生きていくのかである! 現在、ある意味不幸な? 光景（他国への侵略や人権・人命の軽視等!）が面前に広がっていてもいるが、とにかく、「教育」は、そうした現実の中で、たとえそれが、究極の理想ではあつても（他方で、苦しみながらもという意味でもある?）、みんなが協力していくということが重要なのである! この看板（覚悟）を打ち捨てるなら、それは、最早教育ではない! だから、例の「働き方改革」は、学校（教員）の場合には、過重な業務の軽減ということではあるが、ただそこでは、減らせばよいということでは決してないのである!